

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

ハイチ大地震緊急援助募金による活動報告

募金件数: 15,668件

募金額: 129,749,640円(2010年3月31日現在)

活動期間: 初動調査・緊急支援 2010年1月16日～2010年4月1日

復興調査・支援 2010年4月2日～2011年9月30日(予定)

2010年の新年早々、中央アメリカ西インド諸島に位置するハイチ共和国の首都ポルトープランスを、大地震が襲いました。ワールド・ビジョンは直後から緊急支援を開始し、皆さまに募金をお願いいたしました。実に多くの方からご協力をいただき、さまざまな支援を行うことができました。今後、緊急支援から復興支援に移るところですが、これまで行われた活動の報告を、感謝とともにいたします。



倒壊した建物



家をなくし空き地に避難する人々

現地の状況

ハイチで、2010年1月12日16時53分(日本時間13日午前6時53分)、マグニチュード7.0の強い地震が発生しました。震源地はハイチの首都ポルトープランスに近く、被災の中心が都市だったため、甚大な被害へと拡大しました。家屋、商業施設、学校、病院など多くの建物が倒壊し、多くの人々が瓦礫の下敷きになりました。道路は寸断され、交通は遮断されました。

3月現在、22万人以上の人々が命を落とし、30万人以上の人々が負傷したと報じられています。被災者の総数は300万人以上にのぼり、ポルトープランス周辺では130万人以上がテント生活を余儀なくされました。

ハイチは中南米、カリブ海の最貧国とも、西半球の最貧国ともいわれています。約960万人の人口の半数以上が、1日1ドル(約90円)未満で暮らす貧困層です。また、長年不安定な政情が続き、政治能力を欠く政府のもとでは、安全の備えが十分にされてきていませんでした。これらも、地震の被害を拡大させる一因となりました。

I 世界のワールド・ビジョン事務所との協力による緊急支援事業

ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)は、ワールド・ビジョン・ハイチ事務所はもとより、世界のワールド・ビジョン(WV)の事務所と協力して緊急支援活動を実施しました。



水を配布するWVスタッフ



WVから配布物資を受け取る被災者

WVは、ハイチで30年以上にわたり活動を続けてきており、発生直後に緊急人道支援チームを被災地に派遣することができました。チームはまずハイチ国境に近いドミニカ共和国ジミニに備蓄倉庫を設け、避難用テント、浄水剤、食糧、医薬品などの緊急支援物資を配布しました。



クリニックに到着した緊急支援物資を運ぶ男性

その後、USAID（米国国際開発庁）、WFP（国連食糧計画）との協働のもと、325,540人の被災者（65,279世帯）に1,766トンの食糧を配布し、毛布、防水シート、衛生キット、台所キット、衣服、水などの緊急支援物資を28,590人に配布しました。医療支援としては、パルク・アクラ、オート・ラ・グロットと呼ばれる被災者キャンプでクリニックを運営し、加えて、11の病院に医療品の支援を行いました。

WVは、とくに子どもたちのために次のような活動を行いました。

親や保護者と離れ離れになってしまった子どもたちへの支援を最優先として、150人の孤児たちに医薬品、食糧、水などを配布しました。

また、ポルトープランスに設置された被災民キャ

ンプおよび、ハイチから多くの被災者が避難して来ているドミニカ共和国ジミニの2つの病院に、チャイルド・フレンドリー・スペース（CFS）を開設しました。CFSは、震災によって心身ともに大きな傷を負った子どもたちが安心して遊び、被災の心理的ストレスを和らげるだけでなく、親や家族とはぐれてしまった子どもたちを保護するための場所です。

自然災害後の混乱した状況下では、子どもたち、特に親や保護者と離れ離れになってしまった子どもたちは、必要な支援が受けられないばかりか、虐待や搾取などの更なる被害にあう危険が高まります。

WVは、今回のような自然災害や紛争、搾取によ



チャイルド・フレンドリー・スペースで笑顔を見せる少女たち



子どもたちから聞き取りを行うWVスタッフ

て子どもたちの生命が危険にさらされている地域において、CFSによる支援を行ってきました。CFSはワールド・ビジョンのスタッフだけでなく、訓練を受けたボランティア・スタッフによって運営されます。食糧、医療、専門家による心理的サポートを行うとともに、ゲーム、お絵かき、歌など、子どもたちが楽しめる様々なアクティビティを行います。それによって、子どもたちが心に受けた傷を癒し、通常の生活に戻る手助けをします。

III ワールド・ビジョン・ジャパンによる 緊急支援事業

WVJでは、現地の被害状況が十分に明らかになっていなかった中、調査と支援事業の形成のため、海外事業部緊急人道支援課の坂賢二郎スタッフを派遣し、活動を開始しました（1月17日現地着）。

調査の結果、首都ポルトープランスでは震災直後から、住居の支援の必要性が大きくあることが分かりました。調査を行った時点では、被災した人々が雨露をしのげる生活環境も整っておらず、また雨季の本格化による被害の拡大が懸念されていました。

そのためWVJでは、WVのパートナーシップ全体による大きな支援活動の一部として、最も必要とされていたシェルター（家族用テント）の配布を行うことを決定し、支援者の皆さまから寄せられた募金と、ジャパン・プラットフォームからの助成により、シェ



支援活動を行う坂スタッフ

ルター配布を開始しました。

現地には加藤奈保美スタッフを派遣し、2カ月の事業期間中、ポルトープランス内の避難キャンプを中心に約1,200世帯（6,000人）へシェルターを配布しました。これらは人々が自ら組み立てることのできる簡易テントですが、十分な耐久性があります。また防水プラスチックを併せて配布したため、降雨にもより耐えうるものになっています。

また、加藤スタッフは、WVが団体全体として今後どのような支援活動を展開していくのかという計画を策定するため、現場での調査を実施しました。

担当、加藤スタッフより

震災から3カ月が経ちました。青空マーケットの賑わいや、街中から聞こえる音楽、ダンス、そして子どもたちの笑顔を目の当たりにすると、被災による生活の混乱は大分落ち着き、通常の生活に戻つつあるかのように感じられます。

しかし、物質的な面での必要はまだまだ多くある一方で、居住地・キャンプの移転、雨季・ハリケーンへの備え、被災者の精神面でのケアなど、取り組まなくてはならない課題も山積しています。

また、これまで支援を実施してきたポルトープランス以外の地域でも、既存の貧困の問題に加え、今回の被災の影響により加わった多くの困難があり、各地で問題が複雑化しています。支援にあたる団体がいかに関わっていくべきか、ひいてはハイチの人々自らがこれらの多様な問題にこたえていくために何が必要なのか。これらについて取り組むことが今後の課題になります。



子どもたちと話す加藤スタッフ

今後の活動について

WVは、被災後3カ月間、壊滅的に被災した首都ポルトープランスの避難キャンプを中心に支援活動を行ってきました。これらの地域には未だに多くの必要があります。また、今は雨季も始まり、8月には例年ハリケーンの到来もあり、被災者の現在の生活環境をより悪化させる懸念があります。

同時に、今後は、ポルトープランス以外の地域にもさらに支援対象を広げていきます。震災により、ポ

ルトープランスから親戚などを頼って地方に移住した被災者も多くいます。WVは、これまで30年以上にわたり全国各地で子どもたちを支援してきた地域開発事業地を中心に、これらの被災者を対象に支援活動を広げていきます。現在、実施したニーズ調査結果をもとに、5～10年の長期的な支援を視野に入れて、中長期の支援活動計画を策定しています。

皆さまからいただいた募金は、これまで行ってきた緊急支援のほか、こうした中長期の支援を含めた今後の活動にも用いられます。

メリテーヌ (28) は、地震の4日後に、ポルトープランスにあるバルク・アクラの被災者キャンプで双子を生みました。メリテーヌにはテントもなく、殺菌された道具、薬さえありませんでした。WVの保健担当スタッフが親子の健康診断を行ったところ、幸いなことに赤ん坊は健康でしたが、メリテーヌは十分な食事ができていないためにとっても弱っていました。

WVは、被災民キャンプで出産したメリテーヌのような女性のために、テントの配布をしています。また、国連世界食糧計画 (WFP) の食糧配布が終了したのを受け、栄養を強化した食糧支援を始めています。さらに、チャイルド・フレンドリー・スペースや母親クラブといった活動を進め、子どもだけではなく母親に対する精神的なケアも行っています。



メリテーヌと、双子の赤ちゃんの1人



チャイルド・フレンドリー・スペースで過ごす子どもたち

バルク・アクラのチャイルド・フレンドリー・スペース (CFS) では、進行係が中心になって、毎日歌や遊びなどをいっしょに行っています。CFSは、親たちがキャンプの中で生活のために活動している間、子どもたちに居場所を提供しています。ポルトープランス全体で、約3,200人の子供たちがCFSに参加しています。

- お問合せ先 特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン
〒169-0073 東京都新宿区百人町1-17-8-3F
電話03-3367-7621 ※受付時間9:30～19:00(平日、月～金) FAX03-3367-7652
Email: dservice@worldvision.or.jp

www.worldvision.jp

ワールド・ビジョンは、キリスト教精神に基づいて開発支援、緊急人道支援、アドボカシーを行う国際NGOです